



第8回全国食事サービス活動セミナー写真報告

期日：2005年7月17日（日）主催：全国老人給食協定会
会場：丸の内マイプラザ



●基調講演「高齢者にとって食事とは」

講師：足立己幸氏（女子栄養大学教授）食事サービスのねらいは「自分で食事がつくれるようになること」？「食べたい」と感じるのは自己表現。「おいしく」食べられるのは自己実現。食事サービスはそれをサポートするものであって欲しい。例えば「料理を作る」ことができない人も「食事に仕立てる」ことはできるなど、サービス提供者として利用者の「表現」と食環境の関わりをどう捉えるかをご自身の介護体験や弁当ダイエットの具体例を挙げて講義していただきました。



●講義1「介護予防のための食生活と栄養」

講師：柴田博氏（桜美林大学教授）世界一の長寿国となった我が国の平均寿命の伸びは、動物性蛋白質の摂取が伸びた戦後からの食生活にあると、粗食長寿の誤りを正しました。今後、単に長寿を喜ぶだけでなく、高い生活の質（QOL）と高いProductivity（社会貢献）が加わった、心身ともに健康な高齢期（＝サクセスフルエイジング）をめざし、栄養素のみに偏ることなくバランス良く食べ、社会貢献をしながら生き甲斐を持った生活を送る、そのことが介護予防につながることをお話いただきました。



●講義2「食事サービス施策の動向」

講師：加藤英樹氏（厚生労働省老健局計画課）介護保険改正の施策説明を軸に、今まではっきりしていなかった地域支援事業の概略についても言及されました。食の自立支援事業の行く末は未定ですが、介護予防事業への位置づけ、もしくは市町村の任意事業という2つの方向性が考えられる、介護予防事業に組み込まれるとすれば、例えば低栄養対策等の、その効果があるサービスが検討されるなど、かなり踏み込んだお話が聞けました。



●講義3「地域通貨<いっぽ>の展開」

講師：小林房子氏（NPO法人友一友 代表理事）司会：安藤雄太氏（東京ボランティア市民活動センター副所長）地域通貨「いっぽ」が地域を循環することにより日々のボランティア活動に歓びと夢をつなぎ、ボランティア人口が増え市民活動が広がりをみせる、これらを期待し活動を展開している現状について報告がありました。



●平成17年度市民参加型食事サービス活動助成贈呈式

平成17年度は12団体が助成決定、明治安田生命保険相互会社広報部社会貢献担当の植田尚信氏より励ましの言葉と共に助成目録が贈呈されました。



●全国食事サービス活動セミナー 総括

山崎美貴子氏（東京ボランティア市民活動センター所長）住民参加の食事サービスの活動はニーズをつかみ地域の中を耕してきた。良質なサービスとして地域に認知され、広がるために互いの情報交換と実践が大切、と結びました。

全国老人給食協定会とは、コミュニティに暮らす人自らが参加して行う地域の食生活支援活動を、高齢社会に対応できるサービスとして育てていくことを目的に、全国で活動する団体や個人がつくる連絡組織です。

謝辞：このたびのセミナーには全国各地から約150名の方にご参加いただきました。参加者の皆様、ご支援下さいました皆様方、関係各機関・個人の皆様、本当にありがとうございました。

文責（全国老人給食協定会事務局）